

第2回
定例会

一般質問

第2回定例会の一般質問は、6月15日、16日の2日間行われ、9名の議員が登壇し、市政全般について質問がされました。

一般質問とは、執行部に対し施策・事業等の現況や将来計画の考え方など、市民に密着した問題をたずため行うものです。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。



高橋 秀彰 議員

人生100年時代の高齢者施策について

問 本市では、高齢者の体力維持等フレイル^(※)予防について、どのような取り組みで健康長寿につながっているのか伺う。また、コロナ禍における高齢者の生活実態調査等による現状把握は、今後の高齢者の健康寿命の延伸に向け重要と考えるがどうか。

次に、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、面接制限が行われている市内の高齢者施設等において、オンラインの活用

※フレイル…加齢により心身が衰えた状態

は高齢者の心身の健康につながる。オンライン化への市の支援の在り方等を伺う。さらに、人生100年時代を見据え、シニア層の働く意欲に応える多様な就労支援や、より充実した人生を送るため、リカレント教育^(※)等も含めた生涯学習への支援等、今後の高齢者施策の推進について伺う。

答（健康推進部長） フレイル予防のため健康相談、介護予防教室等を行っている。コロナ禍で外出できない高齢者のため、シルバーリハビリ体操の動画を市ホームページに掲載した。また、介護予防教室等終了後の自主化支援も行っている。

答（福祉部長） 高齢者実態調査ではコロナ禍での環境変化で、

※リカレント教育…学校教育を終えた人が再び学ぶこと

困り事が増加していることを受け止め、今後の施策に取り組んでいきたい。高齢者施設等のオンライン活用は、県の基金等を活用した事業を積極的に案内していきたい。高齢者の就労支援は、経験や知識を生かせるよう関係機関と連携し支援を行っていきたい。

答（教育部長） 変化する学びのニーズに応えるため、リカレント教育の概念を含めた各種講座を関係機関の意見を聞きながら提供していきたい。

